

元総社早道乙遺跡

宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2014. 3

前橋市教育委員会
有限会社 三光企画
有限会社 毛野考古学研究所

例言

1. 本報告書は、宅地造成工事に伴う元総社早道乙遺跡発掘調査報告書である。
2. 調査主体は、有限会社毛野考古学研究所である。
3. 発掘調査の要項は次の通りである。
発掘調査場所：群馬県前橋市元総社町字早道866-1
遺跡番号：00344
遺跡略称：25A152
発掘調査期間：平成25年8月19日～平成25年8月31日
整理・報告書作成期間：平成25年9月1日～平成26年3月31日
発掘・整理担当者：柴田洋孝（有限会社毛野考古学研究所）
4. 本遺跡に係る遺構測量に関しては、小出拓磨（有限会社毛野考古学研究所）が担当した。
5. 本書の編集は柴田（有限会社毛野考古学研究所）が行った。原稿執筆はIを福田貫之（前橋市教育委員会）、他を柴田が担当した。
6. 発掘調査・整理作業に関わった方々は以下の通りである。（50音順）
【発掘調査】 井口ヒロ子・岡村美弥子・狩野友好・志村久子・竹生正明・勲使川原幸枝・萩原秀子・森山恵子
【整理作業】 石山亜希子・大滝千晶・賀来孝代・高橋真弓・成田恵美・根本正子
7. 発掘調査で出土した遺物及び、図面などの資料は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。
8. 以下の諸氏・諸機関にはご指導・ご協力を賜った。記して感謝の意を表する。
有限会社三光企画・元総社自治会

凡例

1. 遺構図の縮尺は挿入中にスケールを付してある。また、図中の方位北は座標北であり、座標値は日本測地系の基になっている。
2. 座標値とは別に上野国分尼寺き城確認調査に用いられた4mグリッドの名称を付し、近隣調査との整合性を取りやすくした。
3. 遺物実測図の縮尺は1/1・1/3・1/4で掲載し、図中にスケールを付してある。なお、遺物写真は遺物実測図とほぼ同縮尺である。
4. 遺構および遺構設置の略称は、次の通りである。
H：住居跡 W：溝 D：土坑 I：井戸
5. 地理的環境・歴史的環境・周辺遺跡については「元総社蒼海遺跡群（28）」を参照されたい。

目次

巻頭写真

例言・凡例・目次・図版目次・表目次

I 調査に至る経過	1	III 標準堆積土層	2
II 調査方針と経過	2	IV 遺構と遺物	3
1 調査方針	2	V まとめ	10
2 調査経過	2	抄録・奥付	

図版目次

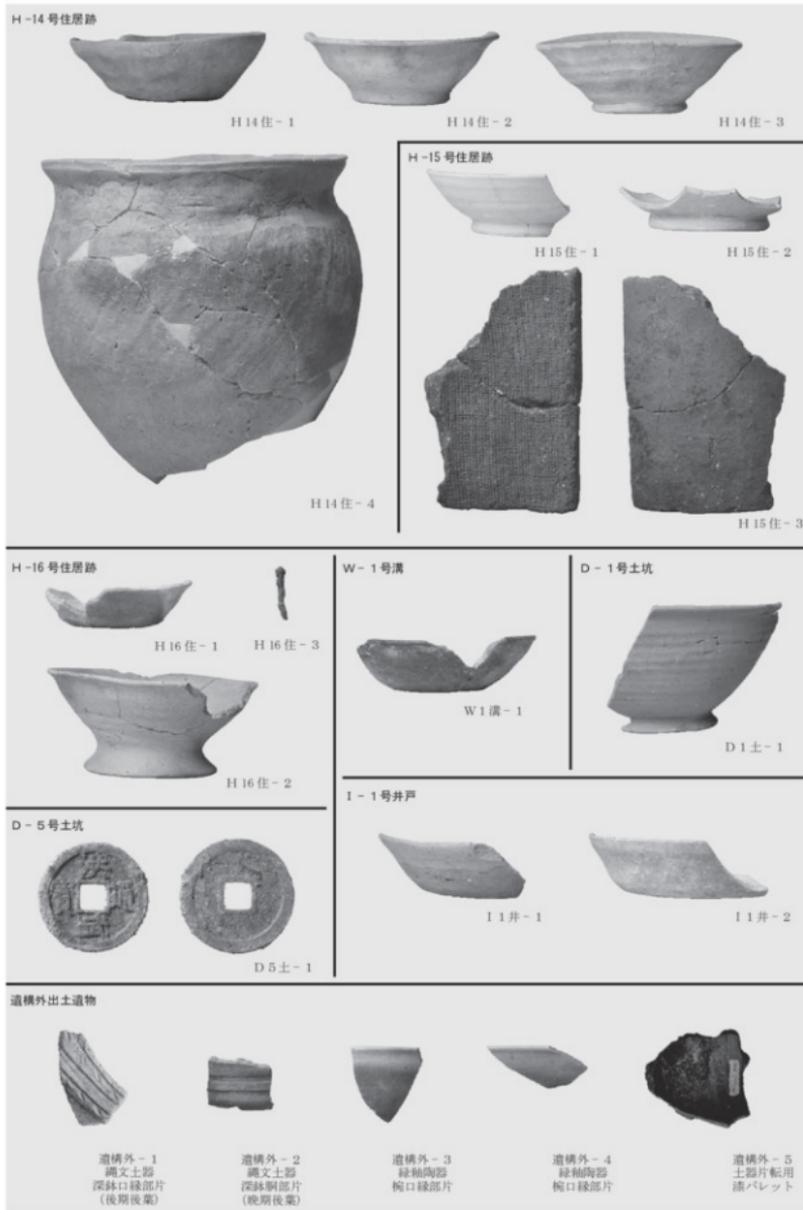
Fig. 1 調査地点位置図	1	Fig. 4 出土遺物(2)	6
Fig. 2 調査区全体図	4	Fig. 5 出土遺物(3)	7
Fig. 3 出土遺物(1)	5	Fig. 6 出土遺物(4)	8

表目次

Tab. 1 遺構一覧表	5	Tab. 3 出土遺物観察表(2)	10
Tab. 2 出土遺物観察表(1)	9		



元総社早道乙遺跡出土遺物(1)



I 調査に至る経緯

平成25年7月24日、開発地を掘削している旨の連絡があり、本課職員が現地に急行した。同日、開発事業者に試掘調査等が必要である旨を説明し、7月26日に試掘調査を実施した。試掘調査の結果、遺構が確認されたため現状保存について指導を行ったが、すでに開発計画が進行していたため、発掘調査を実施し記録保存の措置を執ることで合意を得た。本教育委員会では直営による調査の実施が困難であるため、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」に則り、本教育委員会の作成する調査仕様書に基づく監理・指導の下、発掘調査を実施することになり、平成25年8月12日付けで有限会社三光企画、民間調査組織である有限会社毛野考古学研究所、前橋市教育委員会との間で発掘調査実施に関する協定書が締結され、同年8月19日から現地調査が開始された。

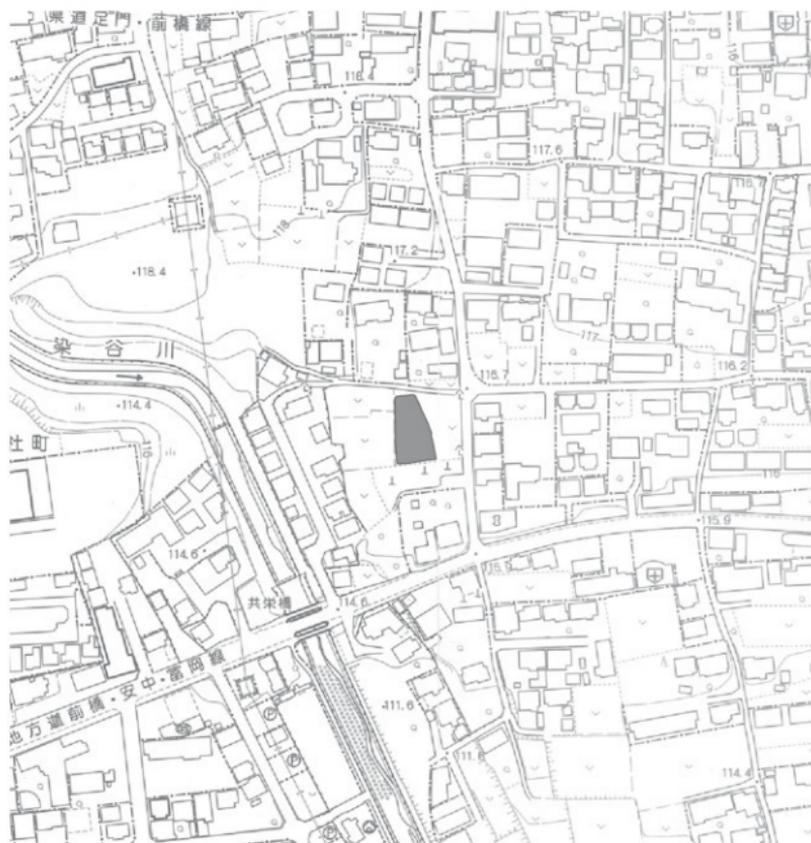


Fig. 1 調査地点位置図（前橋市役所発行『前橋現形図51-4・52-3』1/2,500）

II 調査方針と経過

1 調査方針

本発掘調査は宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査であり、調査面積は408㎡である。調査対象地は試掘調査によって遺構の有無が確認され、調査範囲の設定が行われた。調査を進めるにあたって、測量は世界測地系の公共座標に基づいて行われている。調査方法は、表土掘削→遺構確認・検出作業→遺構掘削作業→土層確認→遺構完掘の順で行い、写真撮影・遺構測量は進捗状況に合わせて適宜行った。表土除去は重機による掘削で、遺構確認面(Ⅲ層)まで掘り下げを行った。遺構確認作業にはジョレンを、遺構掘削には移植ゴテを使用し、出土遺物は可能な限りトータルステーションを使用して3次元計測をした後に取り上げを行った。検出された遺構は、平面測量・写真撮影による記録保存を行い、遺構平面図は1/20を基本として作成し、トータルステーションを使用して測量している。遺構写真は35mm白黒フィルム、35mmカラーリバーサルフィルムを使用して撮影し、補助として1,400万画素のコンパクトデジタルカメラを併用した。

2 調査経過

現地での発掘調査は平成25年8月19日から平成25年8月31日まで、整理作業は平成25年9月1日から平成26年3月31日まで行った。経過は以下の通りである。

【発掘調査】平成25年8月19日：重機による表土除去開始。簡易トイレ・発掘器材搬入。8月20日：遺構検出作業を開始。8月21日：各遺構の掘削を開始。8月28日：遺構平面測量を行う。8月30日：遺構掘削終了。完掘状況の写真撮影を行う。前橋市教育委員会の終了確認が行われる。8月31日：発掘器材の撤収作業。現場における発掘調査は終了となる。



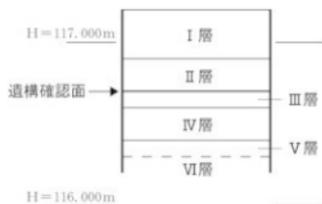
作業風景(南から)

【整理作業】平成25年9月1日：遺構図面の修正作業・出土遺物の洗浄・注記作業を開始。11月6日：遺物の分類・接合作業を開始。12月9日：遺物実測作業を開始。平成26年1月6日：報告書原稿作成、遺構図・遺物トレース・版組を開始。2月28日：入稿・校正。3月24日：印刷・製本。3月31日：報告書刊行・納品。

III 標準堆積土層

調査区の北壁において標準堆積土層を確認した。I層は現表土、II層は旧耕作土であるとみられ下層のⅢ・Ⅳ層が混在しており、耕作が下層にまで及んでいることが看取できる。Ⅲ層は総社砂層の最上層面で、本調査地点における遺構確認面である。Ⅳ層は褐色土で、Ⅲ層がわずかに混入する。Ⅴ層は灰褐色土、Ⅵ層は灰色の砂礫層である。

Ⅲ層以下は色調・含有物が異なるが、すべて総社砂層で、元総社蒼海遺跡群の調査などでは総社砂層が2.5m以上堆積していることが確認されている。



基本層序 (S=1/30)

IV 遺構と遺物

1. 竪穴住居跡

竪穴住居跡は17軒確認された。H-1・3・7・11・14・16・17号住居跡でカマドを検出したが、いずれのカマドも残存状況は悪く、H-11・16・17号住居跡では燃焼部とみられる落ち込みや煙道の一部が残存しているのみであった。H-7号住居跡は住居の北西隅と南東隅にカマドが検出されたが、北西部のカマドはカマドの前面に粘土が散っている状況が確認できたことから北西部のカマドは使用後に壊されたもので、南東部のカマドは造り替えられたものであると考えられる。実際に南東部のカマドは部材とみられる石材が出土している。H-14号住居跡のカマドは、カマドの袖石や支脚とみられる石材が出土したほか須恵器の坏がまとまって出土した。H-10号住居跡では住居北東部から須恵器の坏・碗・皿が重ねられた状態で円を描くように出土、また北西部では坏の底部が打ち欠かれたものも出土した。

なお、H-2・9・15号住居跡に関しては平面形やカマドの有無などから住居跡ではない可能性が考えられる。

2. 溝

溝は2条確認された。W-2号溝は南北方向に走行するが、弧を描いている。壁面の下半には赤褐色粒が付着しており、全体的に硬化していた。遺物の出土はみられなかったため、明確な帰属時期は不明である。

3. 土坑

土坑は7基確認された。D-1号土坑からは土師器・甕と須恵器・碗が出土したが、図化し得たのは須恵器・碗のみである。D-5号土坑からは14世紀の明銭である『洪武通宝』が出土した。その他D-3・4・6・7・8号土坑からはまとまった遺物の出土はみられなかった。

4. 井戸

調査区の北東部で1基確認された。平面形は円形で、漏斗状を呈する。覆土の上層からは流れ込みとみられる遺物が多く出土したが、下層では遺物の出土量が減少した。

5. 土壇墓

調査区の南西部で1基確認したが、遺物の出土はみられず明確な帰属時期は不明である。

6. 表採遺物

小片ではあるが縄文土器、緑釉陶器片、パレットに転用された須恵器片なども出土している。



H-1号住居跡カマド全景(西から)



H-7号住居跡カマド全景(北西から)



H-14号住居跡カマド全景(西から)



H-10号住居跡住居北西部遺物出土状況(西から)



Fig. 2 調査区全体図

Tab. 1 遺構一覧表
住居跡

遺構名	規模 (m)			方位	伊・カマド (m)		貯蔵穴 (m)			出土遺物	埋藏時期	備考
	長軸	短軸	深さ		全長	幅	長軸	短軸	深さ			
H-1	3.51	(1.97)	0.14	N-90°-E	1.08	0.73	0.66	0.52	0.34	土師器・須恵器・灰輪陶器	10c 前	
H-2	(2.98)	(2.46)	0.46	—	—	—	—	—	—	土師器・須恵器・灰輪陶器・瓦	不明	竪穴状遺構小
H-3	3.53	3.24	0.39	N-66°-E	0.69	1.0	—	—	—	土師器・須恵器	7c 後	
H-4	3.75	3.39	0.33	—	—	—	—	—	—	土師器・須恵器・灰輪陶器・羽釜・刀子	10c 後	
H-5	3.85	3.13	0.23	—	—	—	—	—	—	土師器・須恵器	8c 前?	
H-6	3.45	—	0.39	—	—	—	—	—	—	土師器・須恵器・刀子	7c 後 (~8c 前)	
H-7	3.98	3.14	0.19	N-83°-E	1.69	1.2	0.62	0.35	0.35	土師器・須恵器・灰輪陶器・羽釜	10c 後	カマドの 通り跡と 大倉
H-8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	大倉
H-9	4.31	4.2	0.39	—	—	—	—	—	—	土師器・須恵器・灰輪陶器・瓦・軟質陶器	11c?	竪穴状遺構小
H-10	(2.38)	(0.95)	0.16	—	—	—	—	—	—	土師器・須恵器・灰輪陶器・羽釜	10c 後	
H-11	3.52	—	0.36	N-61°-E	0.88	0.86	0.67	0.46	0.98	土師器・須恵器	10c 後	
H-12	6.43	4.21	0.22	—	—	—	—	—	—	土師器・須恵器・灰輪陶器・軟質陶器	(9c 後~) 10c 前	
H-13	3.62	(0.58)	0.33	—	—	—	—	—	—	土師器・須恵器	10c 前	
H-14	4.9	(0.88)	0.13	N-86°-E	0.85	0.75	0.65	0.62	0.22	土師器・須恵器・灰輪陶器・軟質陶器	(9c 後~) 10c 前	
H-15	3.38	3.35	0.45	—	—	—	—	—	—	土師器・須恵器・灰輪陶器・羽釜	10c ~ 11c	竪穴状遺構小
H-16	(2.99)	(2.86)	0.19	N-82°-E	0.52	0.46	—	—	—	土師器・須恵器・灰輪陶器・瓦	10c 後	
H-17	(3.62)	(0.64)	0.1	N-87°-E	—	1.04	—	—	—	土師器・須恵器・灰輪陶器・羽釜	10c	

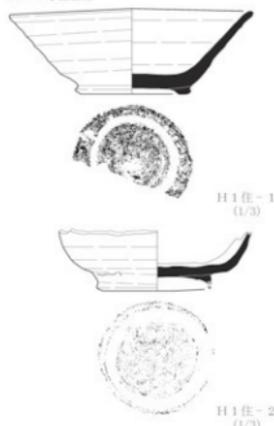
土坑・井戸跡・土壌墓

遺構名	規模 (m)			平面形状	長軸方位	出土遺物	埋藏時期	備考
	長軸	短軸	深さ					
D-1	0.98	0.68	0.23	長方形	N-89°-W	土師器・須恵器	9c 後	
D-2	—	—	—	—	—	大倉	—	
D-3	0.88	0.78	0.49	円形	N-86°-W	須恵器	10c?	
D-4	2.1	1.28	0.14	長方形	N-8°-E	土師器・須恵器	10c 後	人為埋設
D-5	1.36	0.98	0.39	楕円形	N-1°-E	土師器・須恵器・古銭	14c 以降	
D-6	1.26	0.84	0.44	楕円形	N-19°-E	土師器・須恵器・灰輪陶器	9c 後	
D-7	1.46	(0.66)	0.83	(円形)	N-21°-W	—	不明	
D-8	1.78	1.68	0.35	円形	N-20°-W	—	不明	
I-1	1.96	1.7	1.04	円形	N-45°-W	土師器・須恵器・羽釜・軟質陶器	10c ~ 11c	
墓-1	1.38	0.82	0.11	楕円形	N-1°-E	—	不明	即着出土

溝跡

遺構名	規模 (m)			断面形状	走行方向	出土遺物	埋藏時期	備考
	上幅	下幅	深さ					
W-1	1.3	0.96	0.15	逆台形	N-83°-E	縄文土器・土師器・須恵器	9c 後 ~ 10c 前	
W-2	0.8	0.36	0.46	逆台形	N-9°-E	—	不明	

H-1号住居跡



H-3号住居跡



H-4号住居跡



H-6号住居跡

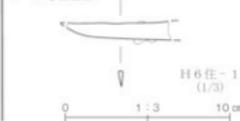
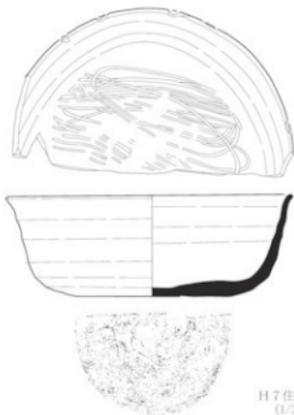
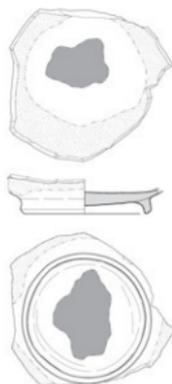


Fig. 3 出土遺物 (1)

H-7号住居跡

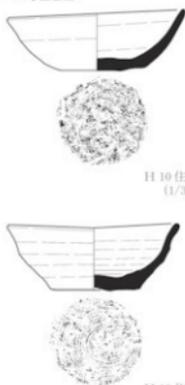


H7住-1
(1/3)



H7住-3
(1/3)

H-10号住居跡



H10住-1
(1/3)

H10住-2
(1/3)



H7住-2
(1/3)



H10住-3
(1/3)



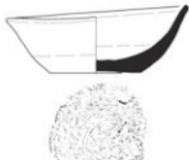
H10住-4
(1/3)



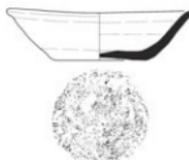
H10住-5
(1/3)



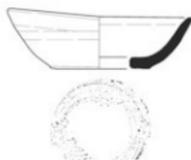
H10住-6
(1/3)



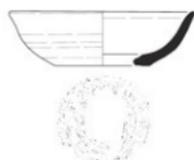
H10住-7
(1/3)



H10住-8
(1/3)



H10住-9
(1/3)



H10住-10
(1/3)



H10住-11
(1/3)



H10住-12
(1/3)



H10住-13
(1/3)



Fig. 4 出土遺物(2)

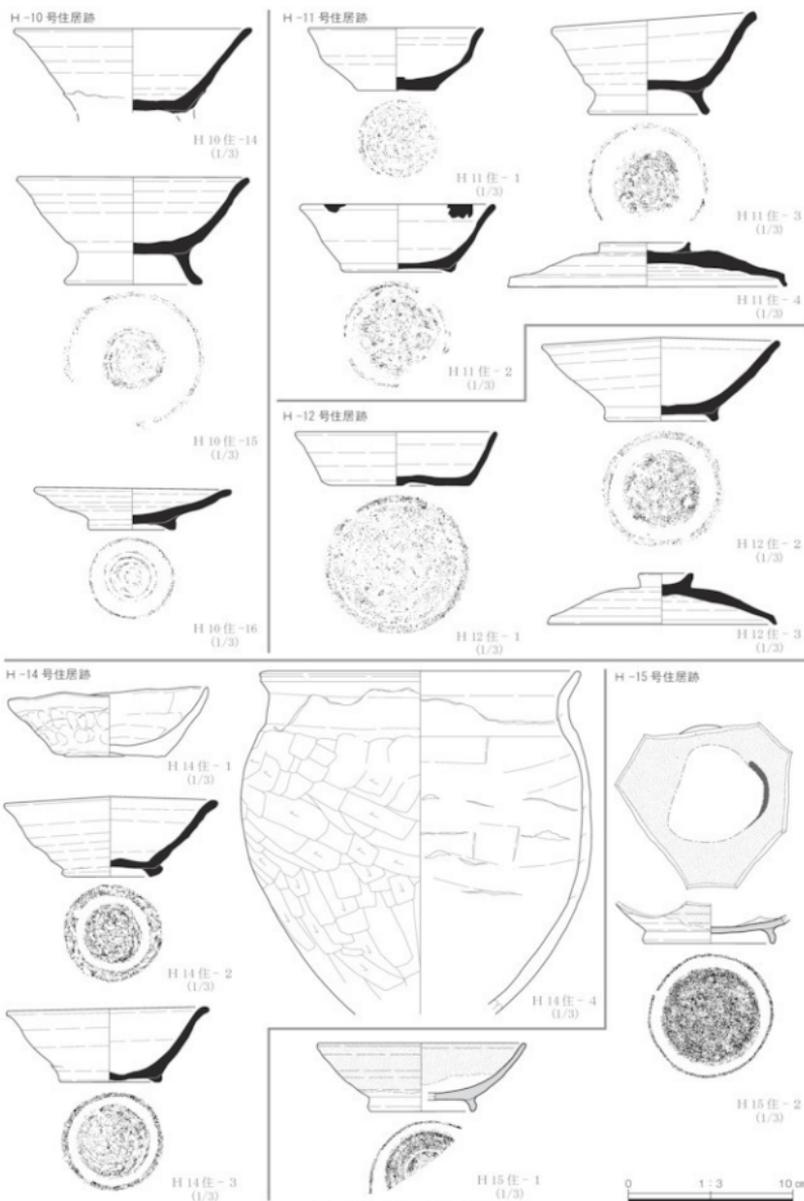
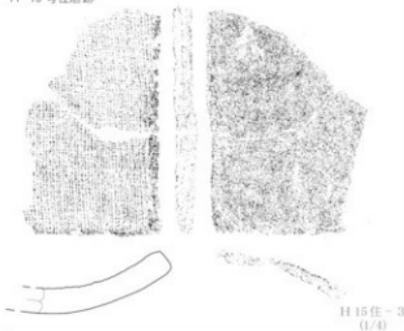


Fig. 5 出土遺物 (3)

H-15号住居跡



H 15住-3
(1/3)

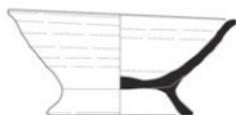
H-16号住居跡



H 16住-3
(1/3)



H 16住-1
(1/3)



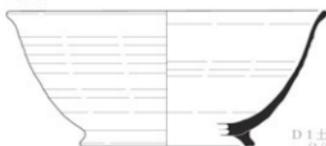
H 16住-2
(1/3)

W-1号溝



W1溝-1
(1/3)

D-1号土坑



D1土-1
(1/3)

D-5号土坑



D5土-1
(1/1)

I-1号井戸



I1井-1
(1/3)



I1井-2
(1/3)

道橋外出土遺物



道外-1
(1/3)



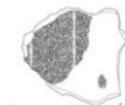
道外-2
(1/3)



道外-3
(1/3)



道外-4
(1/3)



道外-5
(1/3)



Fig. 6 出土遺物(4)

Tab. 2. 出土遺物観察表(1)

遺物名	番号	器種	法量 (cm)	①焼成②着色③紋④保存	成・整形技法の特徴	備考
H-1	1	須恵器 甕	口径：14.9 底径：6.6 器高：5.3	①酸化焼 ②黄褐色 ③石美・白色粒 ④口縁～底部1/2	外面：輪轉整形、 内面：輪轉整形。	
	2	須恵器 甕	口径：6.6 器高：(3.8)	①還元焼 ②黄褐色 ③石美・白色粒 ④口縁～底部1/2	外面：輪轉整形、 内面：底部回転車切り後高台胎付。	人為的な口縁部の 白らみつきあり
H-3	1	土師器 土師器	口径：10.9 器高：3.4	①酸化焼 ②明赤褐色 ③石美・白色粒・黒色鉱物 ④口縁～底部1/2	外面：口縁部横ナゲ、 内面：口縁部横ナゲ。	
	2	土師器 土師器	口径：11.5 器高：3.4	①酸化焼 ②明赤褐色 ③石美・白色粒・黒色鉱物 ④口縁～底部3/4	外面：口縁部横ナゲ、 内面：口縁部横ナゲ。	
H-4	1	須恵器 甕	口径：10.7 底径：5.7 器高：3.4	①酸化焼 ②黄褐色 ③石美・チャート ④口縁完形	外面：輪轉整形、 内面：底部回転車切り。	
	2	須恵器 甕	口径：10.8 底径：5.1 器高：3.3	①還元焼 ②灰 ③石美・チャート・白色粒 ④口縁完形	外面：輪轉整形、 内面：輪轉整形。	
	3	鉄製品 刀子	残存長：5.7 幅：1.2 厚さ：0.4	重さ：6.90g/刃部～		片側
H-6	1	鉄製品 刀子	残存長：6.3 幅：1.1 厚さ：0.3	重さ：6.28g/刃部		
H-7	1	須恵器 甕	口径：(17.2) 底径：18.6 器高：6.2	①酸化焼 ②黄褐色 ③石美・白色粒・白色粒 ④口縁～底部1/2	外面：輪轉整形、 内面：輪轉整形。	見込み部縦割状を呈する破文。
	2	須恵器 甕	口径：(13.0) 底径：(8.2) 器高：5.4	①還元焼 ②外面：焼/内面：黄灰 ③石美・白色粒 ④口縁～底部1/2	外面：輪轉整形、 内面：輪轉整形。	底部高台胎付後ナゲ。雑なタガキ。 壊し。
	3	灰粒陶器 甕	口径：7.4 器高：(2.4)	①灰焼 ②灰黄 ③白色粒 ④口縁～底部1/2	外面：輪轉整形、 内面：輪轉整形。	朱の付着が認められる。 朱の付着が認められる。
H-10	1	須恵器 甕	口径：10.7 底径：5.2 器高：3.8	①還元焼 ②黄褐色 ③石美・白色粒・黒色鉱物 ④口縁完形	外面：輪轉整形、 内面：輪轉整形。	
	2	須恵器 甕	口径：10.3 底径：5.5 器高：4.1	①酸化焼 ②黄褐色 ③石美・白色粒・片岩 ④口縁完形	外面：輪轉整形、 内面：輪轉整形。	
	3	須恵器 甕	口径：(11.0) 底径：(6.8) 器高：4.0	①酸化焼 ②濃い黄褐色 ③石美・白色粒 ④口縁～底部1/2	外面：輪轉整形、 内面：輪轉整形。	
	4	須恵器 甕	口径：10.3 底径：4.2 器高：3.8	①還元焼 ②濃い黄褐色 ③石美・白色粒・黒色鉱物 ④口縁完形	外面：輪轉整形、 内面：輪轉整形。	
	5	須恵器 甕	口径：10.8 底径：5.5 器高：4.0	①還元焼 ②灰白 ③石美・白色粒 ④口縁完形	外面：輪轉整形、 内面：輪轉整形。	朱の付着が認められる。
	6	須恵器 甕	口径：10.9 底径：4.7 器高：3.8	①還元焼 ②灰白 ③石美・チャート・黒色鉱物 ④口縁完形	外面：輪轉整形、 内面：輪轉整形。	
	7	須恵器 甕	口径：10.8 底径：5.6 器高：4.1	①酸化焼②濃い黄褐色 ③石美・白色粒・黒色鉱物 ④口縁完形	外面：輪轉整形、 内面：輪轉整形。	
	8	須恵器 甕	口径：11.0 底径：5.6 器高：3.2	①還元焼 ②黄灰 ③石美・白色粒 ④口縁完形	外面：輪轉整形、 内面：輪轉整形。	
	9	須恵器 甕	口径：10.9 底径：6.0 器高：3.7	①還元焼 ②黄褐色 ③石美・チャート ④口縁完形	外面：輪轉整形、 内面：輪轉整形。	焼成後底部穿孔
	10	須恵器 甕	口径：11.0 底径：5.7 器高：3.4	①還元焼 ②濃い黄褐色 ③石美・チャート ④口縁完形	外面：輪轉整形、 内面：輪轉整形。	焼成後底部穿孔
	11	須恵器 甕	口径：10.4 底径：5.4 器高：4.8	①還元焼 ②灰白 ③石美・白色粒 ④口縁完形	外面：輪轉整形、 内面：輪轉整形。	
	12	須恵器 甕	口径：10.6 底径：5.4 器高：5.0	①還元焼 ②黄灰 ③石美・白色粒 ④口縁完形	外面：輪轉整形、 内面：輪轉整形。	
	13	須恵器 甕	口径：11.0 底径：6.0 器高：4.9	①還元焼 ②濃い黄褐色 ③石美・白色粒・黒色鉱物 ④口縁完形	外面：輪轉整形、 内面：輪轉整形。	
	14	須恵器 甕	口径：(13.0) 底径：8.2 器高：6.6	①還元焼 ②黄灰 ③石美・白色粒・黒色鉱物 ④口縁～底部1/2	外面：輪轉整形、 内面：輪轉整形。	底部に爪痕小認められる。
	15	須恵器 甕	口径：14.2 底径：(5.2) 器高：(5.2)	①還元焼 ②黒 ③石美・白雲母・黒色鉱物・白 色粒 ④口縁～底部1/2	外面：輪轉整形、 内面：輪轉整形。	底部高台胎付後ナゲ。
	16	須恵器 甕	口径：11.8 底径：5.2 器高：3.6	①還元焼 ②黄褐色 ③石美・白色粒・黒色鉱物 ④口縁完形	外面：輪轉整形、 内面：輪轉整形。	
H-11	1	須恵器 甕	口径：10.2 底径：4.8 器高：3.8	①還元焼 ②黄褐色 ③石美・チャート・白色粒 ④口縁～底部1/2	外面：輪轉整形、 内面：輪轉整形。	
	2	須恵器 甕	口径：12.0 底径：6.2 器高：4.1	①還元焼 ②濃い黄褐色 ③石美・白色粒・黒色鉱物 ④口縁～底部1/2	外面：輪轉整形、 内面：輪轉整形。	赤褐色あり 刃明り
	3	須恵器 甕	口径：12.1 底径：6.3 器高：6.3	①還元焼 ②濃い黄褐色 ③石美・白色粒・黒色鉱物 ④口縁～底部3/4	外面：輪轉整形、 内面：輪轉整形。	
	4	須恵器 甕	口径：17.2 底径：5.7 器高：3.7	①還元焼 ②黄灰 ③石美・白色粒・チャート ④つまみ～口縁部3/4	外面：輪轉整形、 内面：輪轉整形。	器入品 (8世紀)

Tab 3. 出土遺物観察表 (2)

遺構名	番号	器種	法量 (cm)	①焼成2色調3軸3面4残存 成分	成・整形技法の特徴	備考
H-12	1	須恵器 杯	口径: 12.0 底径: 8.5 器高: 3.3	①黄土層 ②灰 ③赤土・白色粒 ④ほぼ完成形	外面: 輪轆整形, 底部回転削り。 内面: 輪轆整形。	
	2	須恵器 碗	口径: 14.4 底径: 6.4 器高: 4.0	①黄土層 ②灰白 ③赤土・チャート・白色粒 ④口縁-底部3/4	外面: 輪轆整形, 底部高台貼付後ナズ。 内面: 輪轆整形。	
	3	須恵器 蓋	口径: 13.9 底径: 3.1 器高: 4.2	①黄土層 ②灰白 ③赤土・チャート ④つまみへ口縁部3/4	外面: 輪轆整形, 縁状の積み。 内面: 輪轆整形。	器入品 (8世紀代)
H-14	1	土師器 杯	口径: 12.2 底径: 8.0 器高: 4.2	①酸化層 ②にぶ・黄褐色 ③赤土・黒色炭物 ④ほぼ完成形	外面: 口縁部ナズ, 体へ底部指圧, 粘土巻き上げ状, 底部砂目。 内面: 輪轆整形。	
	2	須恵器 碗	口径: 13.0 底径: 6.2 器高: 4.0	①酸化層 ②明黄褐色 ③白土粒・チャート	外面: 輪轆整形, 底部高台貼付後ナズ。 内面: 輪轆整形。	
	3	須恵器 碗	口径: 12.4 底径: 6.2 器高: 4.6	①黄土層 ②にぶ・黄褐色 ③白色粒・チャート ④口縁-底部2/3	外面: 輪轆整形, 底部右回転削り後高台貼付。 内面: 輪轆整形, 内底部削ナズ。	
	4	土師器 甕	口径: 19.6 器高: 21.0	①酸化層 ②赤土 ③赤土・黒色炭物・白色粒 ④ほぼ完成形	外面: 口縁部ナズリ。 内面: 口縁部横ナズ, 胴部削ナズ。	
H-15	1	民権陶器 碗	口径: (12.6) 底径: (6.2) 器高: 4.3	①明褐色 ②灰白 ③白色粒 ④口縁-底部1/2	外面: 輪轆整形, 底部高台貼付後回転ナズ。 内面: 輪轆整形。	
	2	民権陶器 蓋	底径: 7.4 器高: 2.6	①明褐色 ②灰白 ③白色粒 ④体部へ底部1/2	外面: 輪轆整形, 底部高台貼付後回転ナズ。 内面: 輪轆整形, 体部の付着が認められる。	転用履
	3	平瓦	長さ: (18.5) 幅: (12.7) 厚さ: 2.0	①黄土層 ②灰 ③灰黒部片	両面: 布目織, 凸面: 削ナズ。 側面: 削ナズ。裏面: 削ナズ。	
H-16	1	須恵器 杯	口径: 10.2 底径: 4.8 器高: 3.2	①酸化層 ②黄褐色 ③赤土・黒色炭物・白色粒 ④口縁-底部1/2	外面: 輪轆整形, 底部右回転削り。 内面: 輪轆整形。	
	2	須恵器 碗	口径: 14.0 底径: 6.9 器高: 6.9	①酸化層 ②にぶ・黄褐色 ③赤土・黒色炭物・チャート ④ほぼ完成形	外面: 輪轆整形, 底部高台貼付後ナズ。 内面: 輪轆整形。	
	3	釘	長さ: 3.1 幅: 0.6 厚さ: 0.4 重さ: 1.89g	角釘		
W-1	1	須恵器 黒色処理片	口径: (12.9) 底径: (6.2) 器高: 4.3	①酸化層 ②にぶ・黄褐色 ③赤土・黒色炭物 ④口縁-底部1/2	外面: 輪轆整形, 回転削り後削ケズリ。 内面: 削ナズ。	黒色塗布片
	1	須恵器 碗	口径: (10.2) 底径: (6.7) 器高: 8.3	①黄土層 ②黄褐色 ③赤土・白色粒 ④口縁-底部1/3	外面: 輪轆整形, 回転削り後高台貼付。 内面: 輪轆整形。	
D-5	1	陶製品 白灰	直径: 2.4 厚(角): 0.5 厚さ: 0.2 重さ: 3.11g	『洪武通宝』		14世紀
I-1	1	土師器 杯	口径: (13.2) 底径: (7.0) 器高: 3.7	①酸化層 ②暗 ③赤土・白色粒・黒色炭物 ④口縁-底部1/2	外面: 口縁部横ナズ, 体部へ底部削ケズリ。 内面: 横ナズ後体部放射状増文, 見込み部縦線状増文。	
	2	須恵器 杯	口径: (14.6) 底径: (8.0) 器高: 3.7	①黄土層 ②灰白 ③赤土・白色粒 ④口縁-底部1/2	外面: 輪轆整形, 底部回転削り。 内面: 輪轆整形。	
遺構外	1	縄文土器 深鉢	器高: 55.0	①酸化層 ②黄褐色 ③チャート・白色粒 ④口縁部片	外面: 器状口縁, 口縁部肥厚, 口縁部々々帯に角棒状工具による単位状溝を多段に加工後, 浅彫削に矢筈状工具による高みを加す。体部は残存部位に限り裏面: ミガキ。	縄文後期後葉
	2	縄文土器 深鉢	器高: 53.0	①酸化層 ②黄褐色 ③白色粒 ④体部片	外面: 器位の平行的浅溝を施文。 内面: 磨滅。	縄文後期後葉
	3	緑釉陶器 碗	口径: (14.0) 器高: (4.3)	①明褐色 ②オリーブ灰 ③白色粒 ④口縁部片	外面: 輪轆整形。 内面: 輪轆整形。	
	4	緑釉陶器 碗	口径: (15.6) 器高: (2.4)	①明褐色 ②オリーブ灰 ③白色粒 ④口縁部片	外面: 輪轆整形。 内面: 輪轆整形。	
	5	須恵器 長筒飯	器高: (5.7)	①黄土層 ②暗黄褐色 ③白色粒 ④体部片	外面: 輪轆整形。 内面: 輪轆整形。	パレットに転用

V まとめ

元総社地区はこれまでの発掘調査によって8・9世紀代の竪穴住居跡の検出数は7世紀以前ならびに10世紀以降に比べると極端に少なく、地域によっては検出されないことが知られており、これは上野国分寺・上野国府の造営事業に際し、当該地区の人々(一般庶民)が退去させられているためと考えられている。逆に8・9世紀代の住居跡が検出される地点は、国庁城に関わる(国庁に従事する)人々、もしくは国庁を下支えする人々(耕作者・工人)が住まう地域と解される。つまり、8・9世紀代の住居跡の検出が、現在推定されている上野国府城の範囲や土地の利用状況をより明確にするための重要な資料となる。元総社早道乙遺跡に目を向けると、確認された住居跡は7世紀後半・10世紀以降に帰属するものであり、これまでの調査成果に照らし合わせると本遺跡も上野国分寺・上野国府の造営期である8世紀に人々が退去させられ、衰退期である10世紀以降から再び集

落を営む様子が看取される。また、8・9世紀の遺構が確認できなかったことから、本遺跡周辺は国分寺・国府盛行期に直接的な土地の利用が少なかったと考えられるが、国府推定域に隣接しているため、より強い国府城の影響下にあった可能性も十分に考えられる。

元総社地区で確認される7世紀～10世紀の住居跡の覆土は、3世紀末以降下した浅間C軽石（A s - C）が混入するものであり、本遺跡の住居跡の覆土中からも浅間C軽石が確認されている。また、覆土は黒褐色ないしは暗褐色を呈している。これまでの調査で7世紀代の住居跡は国府造営に伴い人為的に埋め戻されている事例（A s - Cだけではなく、6世紀初頭に降下した榛名二ツ岳汎川テフラ＝H r - F Aも混入）も確認されているが、本遺跡の7世紀代の住居跡では明確に埋め戻しと捉えられる状況は確認できなかった。

H-10号住居跡で須恵器の坏・碗がまとまって出土した状況については、元総社蒼海遺跡群（39）の調査でD-49号土坑からH-10号住居跡と同じ10世紀代の須恵器の坏が正位の状態でも重なって出土している事例と類似しており、本遺跡の出土例も直接住居跡に伴うものではなく土坑に埋設されたものである可能性も否定できない。今後の元総社地区の発掘調査による同じ事例の確認・検討が望まれる。

抄 録

フ リ ガ ナ	モトソウジャハヤミチオツイセキ
書 名	元総社早道乙遺跡
副 書 名	宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻 次	
シ リ ーズ 名	
編 集 者 名	福田貫之 柴田洋孝
編 集 機 関	有限会社毛野考古学研究所
編 集 機 関 所 在 地	〒379-2146 群馬県前橋市公田町1002番地1 ☎027-265-1804
発 行 機 関	前橋市教育委員会
発 行 機 関 所 在 地	〒371-0853 群馬県前橋市総社町3-11-4 ☎027-280-6511
発 行 年 月 日	西暦2014年3月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
元総社早道乙遺跡	群馬県前橋市元総社 早道乙町字早道866-1	10201	00344	36° 23′ 08″	139° 01′ 50″	2013.08.19 ～ 2013.08.31	408㎡	宅地造成工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元総社早道乙遺跡	集落	古墳 奈良 平安	竪穴住居跡 溝 土坑 井戸 土壇墓	17軒 2条 7基 1基 1基	土師器 須恵器 灰軸陶器 緑釉陶器 瓦 鉄製品

元総社早道乙遺跡

宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成26年3月24日印刷

平成26年3月31日発行

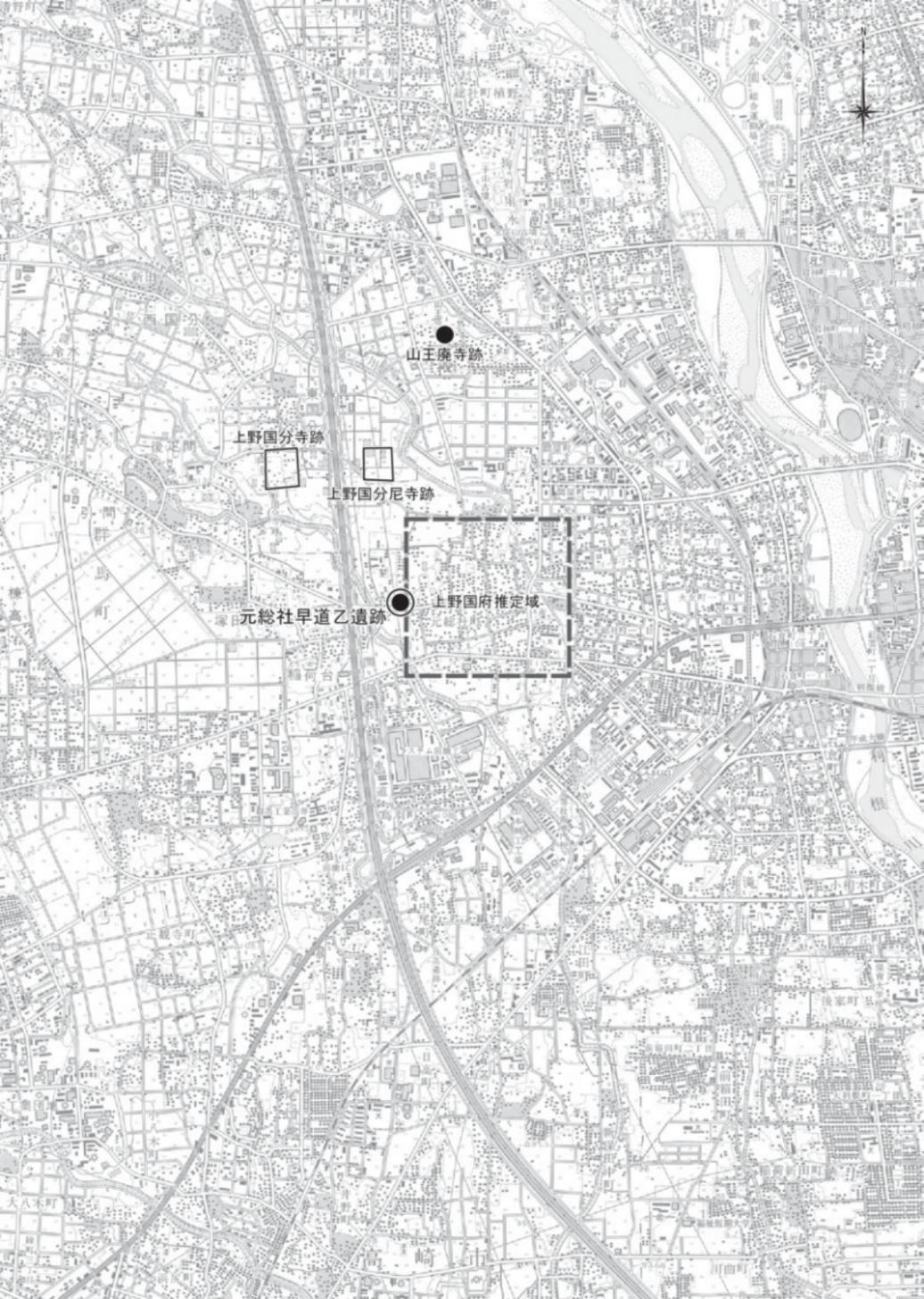
編集 / 有限会社毛野考古学研究所

発行 / 前橋市教育委員会

前橋市総社町3-11-4

☎027-280-6511

印刷 / 朝日印刷工業株式会社



山王廃寺跡

上野国分寺跡

上野国分尼寺跡

元総社早道乙遺跡

上野国府推定域